

令和8年8月7日市長定例記者会見 会見録

◆司会

皆様定刻になりましたので、ただいまから8月7日静岡市長定例記者会見を開会いたします。本日の発表案件は2件でございます。1件目が東静岡地区市有地51番街区の活用に向けた民間事業者からの提案募集の件。2件目が急病時安心預かり保育付き病児病後児保育室ぽっけの新設でございます。それでは難波市長お願いいたします。

◆市長

はい、よろしくお願いします。まず1件目ですが、東静岡地区市有地51街区、ちょっとわかりにくいので図面で後でご説明しますが、そこで民間事業者からの施設整備の募集をするというものです。ちょっとこちら、場所は東静岡駅でここにアリーナ予定地があって長沼駅となりますけれども、駅を降りてここに広い自由通路がありますが、それから階段を降りて下に降りた辺りですね。このあたりの用地について今回募集をするということになります。これはなぜかという、これからこのアリーナが2030年の春の予定ですけれども、開業をすると非常に人の流れが出てきますので、ここに市が持っている土地がありますのでこれを有効活用してまち作りをしようというものです。今見ていただくと東静岡駅ですね、こちらにおいても商業施設はほとんどありませんが、ここの中に想定としては商業施設、オフィス、それからホテル、こういったものをここで作るということと、もう一つはペDESTリアンデッキの歩道橋ですね、歩道橋をこの建物の中に入れてそれを民間事業者に作ってもらおうというものになります。市有地の面積は3100平方メートルになりますが、ちょっと次の図を見ていただくとよりわかりやすいと思います。

この降りたところ自由通路から出たところですが、ここに51街区というのはこれだけあります。今ここに駐輪場があります。この駐輪場のところにこれを作ろうということになります。一時的にこの駐輪場を撤去して、撤去した後はいろいろ使って他のところで用意しますけれども、またこれが出来上がったときは駐輪場をどこにどうするかも考えていきたいと思います。

ここに公共用通路とありますがこれがデッキになります。これがアリーナに繋がっていくデッキがここに入ります。これもちょっと下をお願いします。

これが今度は今上から覗いたような状態ですけど、横から見たときにどうなるかということですけども、ここに通路があってアリーナの2階が低いのでここに少し下がりながらつながりますけど、こうやって歩道橋に繋がっていくという形になります。

ここに建物が建ちます。これ2棟立つ予定で、こちらは民間施設ですのでオフィスだったり、ここの下は商業施設になります。もう一つこの中に産学官連携研究開発拠点、これは市が取得をして東静岡で新しい産学官の連携拠点施設を作る予定にしております。これ全体を事業者にやっていただいて、この部分で公共的なところ、この通路とそれからこの開発施設のところを市が後で買い取るという形になります。こちらの用地については駅のすぐ横ですので、これは貸付を予定しています。土地を貸し付けして事業者にこれを作ってもらおうという形になります。こちらはなぜかという、駅のすぐ横ですのでここは公共的な用地としてずっとアリーナまで繋がっていかないといけませんので、ここは市が土地は所有したままでこの建物は官民の複合施設になります。

こちらですね、その横ですけども、ここにホテルを、おそらくホテルが一番有望だと思いますけど、ホテルを想定したものを建ててもらおう。こちらは売却または貸し付けを予定していますが、おそらく売却が有望ではないかなと思いますけれども、どちらでも対応できるということです。こちらは両方とも建築面積1600と1500平方メートルで、それに建ぺい率が容積率、建ぺい率がありますので、最大でこちらの建物は5000平方メートルぐらいの延床面積、事業費として40億円程度を想定しています。こちら民間施設については、1500平方メートルで延べ床面積6000平方メートルぐらい。建設費は36億円ぐらいを想定しているということになります。これをやることによって市の支出が出るのかということになりますけれども、それは次をお願いいたします。

この仕組みとしては、静岡市と事業者間で契約をします。官民の複合施設については定期借地権を提供しますので、その分が借地料として市に入ってくるということになります。もう一つのこの民間施設については定期借地または土地売買になっていますが、土地売買だとすると土地を売ったお金が市に入ってくるということになります。この借地料または土地購入費が市に入ってきますので、この先ほどのデッキと研究開発拠点の施設の部分を事業者から市が買っても、費用は市の収入の方が多いという形になります。それを示すのはこれになりますけれども、市は借地料と土地売却益が入ってきます。一方で公共等の床と書いていますけれども、歩道橋と研究開発拠点の施設の取得費が入りますが、これよりも収入の方が多いという形態になりますので、市はお金を出すことなく、収入をむしろ得る形でここに施設ができるということになります。

なぜこういうものを作るのかということですけども、とりわけ産学官連携研究開発施設ということですけども、これはよく長崎のこのスタジアムシティというのが最近では話題になりますけれども。この長崎のスタジアムシティは駅のすぐ横にあって人が集まる場所ですので、そこにこの長崎大学のテクノロジーイノベーションキャンパスというのを置いています。ここに長崎大学のサテライ

トキャンパスがあって、情報データ科学分野の七つの研究室がここに入っているということになります。

これから東静岡はですね、アリーナですけど、いわゆるコンテンツ産業ですね。いろんなイベントだとか、あるいはコンサートスポーツ関係のものが開かれますけども、それとともにその中でいろんな表現をしていくことになりますから、その中が情報であるとかデザインだとかそういうところの研究であるとかビジネスと非常にいわゆる合っていると、マッチングがうまくいっているというものであります。長崎もアリーナとスタジアムとオフィスが一体でここは作っているんですけど、そのオフィスのところにこういう大学の研究開発拠点がありますので、静岡も同じような形でここに大変小規模にはなりますけど、まずはこういう研究開発拠点を入れてみようということになります。

ちょっともう1回戻していただいて、最初の図面をお願いします。

これアリーナのこの北側だけになっていますけども、実際にはこちらの南口側にこれから県が図書館ある、グランシップがあるということがありますがけれども、ここに文化施設がいろいろできてくることになります。県の考え方としてはおそらく、ここにいろんな研究開発拠点、図書館だけではなくて研究開発施設であるとかオフィスが入るようなものを想定していると思いますので、ここが新しいそういう情報系だとかデザイン系だとかコンテンツだとか、クリエイティブ産業だとか、そういう新しい分野の産業の拠点になるということを想定して、その第一歩としてここにそういったものを入れていくということを考えています。一つ目のご説明は以上です次をお願いします。

次は急病時の安心預かり保育付き病児病後児保育室ぽっけの新設ということですが、これ清水区の市立清水病院の敷地の中に開設をいたします。

この病児病後児保育室の役割ですけども、これは保育中にお子さんが急な発熱などで体調を崩したときには、ここの病児病後児保育室で預かってくれるんですけども、それが病児病後児保育室の役割ということになります。これに急病時安心預かり保育付きということになりますけども、そのときに親御さんが迎えに行けないと、今仕事をしていてどうしても手が離せないので保育園からあるいはこども園から迎えに来てほしいって熱を出しているので迎えに来てほしいってような連絡があっても迎えに行けないことがあるわけですね。そういうときのために今やっているこの急病時安心預かり保育というのは、保護者に代わってこの施設のスタッフが迎えに行って、そして病院の診察を受けてもらう。そしてその後保育看護を受けることができるということの診断を受ければ、そこでそのまま預かっておくという施設です。夕方と言いますか、仕事の都合がつくようになったところで、ここに親御さんが迎えに来るというもの

になりますこれはですね、図面をはい。

今、この病児病後児保育室というのが四つあります。このポッケというのが新しいので、それ以外に、「にじいろ」、「なでしこ」、「こうのとりのかがやき」とありますが、このうちなでしこが今急病時の安心預かり保育をしている施設になります。それ以外のものは病児病後児保育室ということになります。そこにこの「ぽっけ」が新しく加わることになります。これ利用の制限があって、この施設の人がこども園まで迎えに行きますので、そうするとあんまり距離がありすぎると時間かかるということもあるので、今標準的には7キロ圏内ということにしていますけれども、このなでしこでやっているのこのあたりは迎えサービスの範囲内になるんですけど、こちら側が今まで抜けていたということになります。

今回ここに「ぽっけ」ができることによって、この清水エリアも全て対象になりますので、全体としてはこの赤のぽつのついたのがこども園等を指していますが、ほとんどのところが病児病後児保育室が利用できますし、そして急病時安心預かり保育もできるという状態にあります。こういう由比、蒲原、中山間地はちょっと抜けてしまいますけども、人口カバー率でいうとほとんどのところをカバーしているという状況になります。

これは9月1日からですね、市立の清水病院内に開設をするということになります。ちょっと利用方法ももう一度確認をすると、これは事前登録をしていたくことになりますので詳しくはご説明いたしません、事前登録をしていたいて、いざというときにはこれを利用していただくということになります。開設日はこの「ぽっけ」の開設日は9月1日からということになります。説明は以上になります。ありがとうございました。

◆司会

それではただいまの発表案件について質疑をお受けいたします。質問のある方は挙手の上お願い致します。テレビ静岡さん。

◆テレビ静岡

テレビ静岡の永井です、よろしくお願いします。51街区の方なんですけども、市長が想定されるホテルにつきましてちょっと規模感がよくわからないんですが、どのぐらいの規模のホテルを期待されているんでしょうか。

◆市長

規模ですね。まずちょっと先ほどの資料。これ延床6000平方メートルになりますので、共用部分を除いて5000平方メートルとすると、事務とかそういう

のを除くと例えば1室20平方メートルであれば、250室規模ということになります。もっと狭い大きいといろいろあると思いますが標準的に20平方メートルですねシングルのちょっと広めぐらいですと20平方メートルだと思います。それだとおそらく250室ぐらい取れるものになると思います。

◆テレビ静岡

例えば外国資本のいわゆる高級ホテルと言われるようなホテルなのか、今静岡市内にもあるような中規模のホテルなのか、その辺はいかがですか。

◆市長

これから提案を求めますが、静岡市として今非常に欲しいのはいわゆる四つ星五つ星ですね。できれば五つ星ぐらいのホテルが欲しいんですけども、立地条件からいってここはちょっと厳しいかなと思います。やっぱり四つ星五つ星になると、この下のところから相当高級感がある状態で作り上げていきますので、当然そこでそれなりの宿泊料金を出していただくということですので、それを東静岡のこの場所でっていうのはちょっと厳しいのではないかなと想定をしています。同じものが静岡駅のところであればもう少し高級ホテルも可能だと思いますけども、それがここはむしろ日常的な利用とアリーナと一体となった、例えばコンサートがある日の前の日から泊まるとか、あるいはそこでいろんな国際会議であるとか学会だとか開く可能性もありますからそういうときにここに泊まるっていうことですね。それからもう一つ南側にグランシップもありますけども、グランシップでいろんな催しが行われて国際会議も行われていますけども、やはり宿泊施設があつた辺りはないので、そうするとグランシップでいろんな催しがあるときの宿泊にも使っていただける。そうするとあまり高級なものよりもどちらかというとビジネス、ファミリー用ですね。そういったものが、考えられるんじゃないかなと思っています。

◆司会

その他質問いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビの林です、よろしくお願いいたします。2ページがわかりやすいかなと思うんですけど、それぞれ市有地が1670、1549平方メートルとあるんですがそれぞれの不動産価値はいくらぐらいでしょうか。

◆市長

高く買ってもらいたいのであんまりいくらだとは言い難いですが、少なくとも6億円以上の収入を、ここの部分ですね、これで6億円以上はお願いできるかなと思っています。建築面積になっていますけども、なんかちょっと違いますねこれ。敷地面積は幾らでしたっけ。これ表示が誤っているかもしれません。後で確認しないといけないですけど、ここの敷地面積は1500平方メートルを買うということになると、1平方メートル、いわゆる平米40万円ということになると6億円ということになります。

◆静岡朝日テレビ

わかりました。ちなみになんですけど、その隣に関しては貸し付けるかもしくは、あ、1670平方メートルの方ですね、ここは貸付か売却ってことですけども民間施設が四つぐらいあるんですけど、これは何を想定されているんでしょうか。

◆市長

これはいろんなこれから提案をいただくということになると思います。例えばここは一番典型的なこの民間施設の階ですけど、ここは公共用通路になっているので目の前をいっぱい人が歩いていくわけですね。そうするとこの階は必ず店舗になると思います。それより上はオフィスなのか、あるいはそこに商業施設が入るのか、ちょっとそこはまだ想定をしていません。これはもう完全に産学連携施設ですので、研究者たちが集まってやるようなコワーキングスペースであるとか。それからできればどっかの大学と連携、長崎でいうと長崎大学が入ってきていますから、ここにどっかの大学が入ってきてここで研究開発をすると、そういうようなことを想定しています。こちらは駅にちょっと近いので今の目論見としては、貸した場合は30年間で8億4000万円ぐらいかなと思っています。さらにできれば年額3000万、30年で9億という金額になりますけれども、大体そのあたりで8億円から9億円の借地料収入を得たいと思っています。そうするとあわせて土地を売却すると6億強、7億だとしてこちらが9億だとすると16億ですね。だから15から16億円ぐらいの収入が得られるんじゃないかなと思っています。

◆司会

はい、読売新聞さん。

◆読売新聞

読売新聞の渋谷と申します。関連で一つだけ。今回土地の利用を二つに分けてそれから2棟としていますけれども、この理由を教えてください。というのも、事業者間に前向きな事業者がいるとしてちょっと自由度が下がるんじゃないかなと思ったりするんですけども狙いを教えてください。

◆市長

狙いは、こちらは官民複合施設になりますので、そうするとやはりこちらは売却してもいいんですけども、やっぱり駅のすぐ目の前のところでやっぱり市としては将来のこともあって、もう自分で持っておきたいということですね。こちらについては自分で持っておく必要がないので、貸付でも売却でもどちらでもいいんですけども、おそらくですけどもこの民間施設を建てる方は、土地の貸し付けではなくて購入して自分の土地にしてその上を建てる方が、ファイナンスか融資ですね、そういった面で多分有利になると思います。ですから、ここわざわざ分けたのはそういうことで、こちらだけの売却というか購入をするということが多分一番可能性が高いので、そうすると両方とも定着にしようとかこちらの買いたいという人の意欲をそぐことになるので、そういう面でこちらはどちらでも良い売却でも貸付をしてでもどちらでもいいとしていますけど。どちらかというと、売却希望が多いと思います。

◆司会

はい、静岡新聞さん。

◆静岡新聞

静岡新聞の岡田です、よろしくお願いします。こちらの2ページの図なんですけれども、建物の階数的なものがちょっとすいません。先ほど言っていた建築面積とか延床面積の数値で、官民複合施設の方はイメージで言うと4階から5階とかなのかなと。宿泊施設の方はそれよりも高いようなイメージがあるんですけども、そちらの数字を見る限り多分建ぺい率とかを考えたり容積率を考えるとそんなに規模的にはものすごい高いものがないのかなというふうに思いまして。ちょっとその辺りを今のイメージでいいので教えていただければと思います。

◆市長

まず建物としては高層にする方が単価が高くなってしまいますので、そういった面でこの単価ちょっと無視していただいて。これはいろんなものが入ってく

るから建築費の単価が高いだけですので、あのペDESTリアンデッキが入ってくるのが高いだけですがちょっと無視していただいて。一般論で言うと高層にすると建築費は高くなると、平米単価は高くなると思う。ですからこちらはあんまり高くするメリットがないので。もう容積率 500%ですから、この敷地面積に対して容積率を 100%使ってできるだけ低いもので作っていくというのが多分有利だと思います。そしてこちらについてはホテルですので、ホテルはやっぱり眺望とかの問題があるのである程度やっぱり高さを取りたいということがあると思います。従ってこちらは建ぺい率 80%になっていますが、建ぺい率で決まるんじゃなくてむしろ容積率で決めて、建物の 1 階の面積は絞って、それで高さをとって容積率 500%いっぱい使うというのが、多分現実的ではないかなと思います。

◆司会

はい、引き続き静岡新聞さん。

◆静岡新聞

静岡新聞の塩谷です、よろしくお願いします。先ほど産学連携研究開発施設のことについてもコンテンツ産業との親和性も結構高いというようなお話もありましたけど、もう一度こういった研究をやっていてこういった役割を持たせるかっていうのを説明いただけたらありがたいです。

◆市長

これですね、大学の研究機関に来てもらって、その大学がここにサテライトオフィスを構えるっていうのが一つのポイントになると思います。先ほど長崎は長崎大学の情報学部がそこに最初に進出してきて、やっぱり今情報学部と連携をしたい企業というのは非常に多いので、長崎スタジアムシティにお聞きしたところによると、長崎大学の情報学部がそのオフィスに進出するというのを決めて、それが出るとこちらのオフィス需要がすごく高まったということがあります。したがって、やはりこれからの情報系だとかそういう関係の大学のサテライトオフィスがここに入ってもらって、それと一緒に産学官の研究なり技術開発なりあるいはビジネスを、新しいその製品商品サービスの提供するようなことを研究開発するというのが一番あり得るかなと思っています。

◆司会

はい。中日新聞さん。

◆中日新聞

中日新聞の飯盛です、よろしくお願いします。今のアリーナで、このご説明だと既に関心を示している民間企業なんかいくつかあって、この要件でのその実現可能性っていうのは高いと見てらっしゃるということでよろしいでしょうか。

◆市長

はい、こういう仕組みを作るにあたっては事業者の方と意見交換をしますので意見交換をした結果、先ほども申しましたけど、2棟に分けるんですか、こっちは売却が中心でこちらは貸付なんですかというのがありましたけども、そういうこともやっぱり意見交換をして、こういうことだったら出る可能性が高いというようなことは大体意見交換できていますので。進出についてはもう既に検討を何社かしてくださっていると思いますので、そこでできれば我々としては、これ最低価格ですので高めに買ってもらうのは全然問題ないので、あの競争になって高めに買ってもらえればと思っています。そんなに都合良くいくかどうかわかりませんが、少なくとも一社は必ず出てきてくれるんじゃないかなと思っています。つまり公募したけど空振りでしたみたいなことにはならないと思って今やっています。

◆中日新聞

ありがとうございます。あともう一つ51街区には直接関係ないんですけども、アリーナの寄付金について伺います。現時点で1億円余りぐらいだったと思うんですけど、目標額が25億円で現状の受け止めと、開業までまだあと3年ありますけどもこれからもっと寄付加速させていきたいなどの意気込みがあればお願いします。

◆市長

いよいよ本格的に始まってきましたので、なかなか早い段階でっていうのは寄付が集まりにくいんじゃないかと思います。具体的にいつこんなものができて大体こんな運用がされるんだ、みたいなのが出てくるとそこで相当盛り上がってきますし、それだったら自分もちょっとそこでビジネスなりやってみたいという方もいらっしゃるので、それだったらこれ応援をしようということで寄付をくださる方もいらっしゃると思いますし。あと市民の皆さんですね、まだまだここで3年4年後にここでどんなものになるのかっていうのがやっぱりわからないので、なかなか寄附も意欲が湧かないんじゃないかなと思いますけれども。ここ年間でコンサートが何回ぐらい開かれてこんな人たちが来る可能性あ

りますよって具体名はなかなか言えませんが、そういうのが出てくるとそれだったら自分もちょっと寄付してみようと。寄付してくださった方は何らかの形でここに名盤なりそういうのが入りますので、だったらそういうコンサートが開かれるようなところで自分の名前が入っているのはいいよねっていうことで寄付してくださる方も増えるんじゃないかなと思います。今の寄付額は1億 3000 万強だったと思いますけれども。毎月何件もご寄附をいただいていますので、順調に推移していると思っています。最初はやっぱりこのぐらいじゃないかなと思っていますので、ここからどのくらい多くの方々のご理解、ご支援をいただけるかということ、よりそういうものが活発になるように我々としても努力していきたいと思っています。

◆司会

その他発表案件についていかがでしょうか。はい日経さん。

◆日本経済新聞

日本経済新聞の木下です、よろしくお願いします。ちょっと的外れだったら恐縮なのですが、このアリーナの民間施設を運営する事業者っていうのは1社を想定しているのか、それとも複数の企業グループを想定しているのか。もし考えがあれば教えてください。

◆市長

はい。どういうところが出てこられるか、いろいろ問い合わせとか意見交換をさせていただいていますけれども、それは代表企業がお話をされているのでその企業がどういう仕組みでおやりになるのかっていうのは我々ちょっとわからない状況ですね。コンソーシアムだとかアライアンスを組んで何社かで連携をしてやるという可能性もあるので、その辺りはまだなんとも言えないという状況にあります。

◆司会

はい、NHKさん。

◆NHK

NHKの小泉です。確認なんですけれども、そのスケジュールにも書いてありますけれども 2030 年の 4 月が公共の供用開始ということでここに合わせて開業を目指すということで。

◆市長

そうですね、まずはちょっと図面ですけど。図面を見るまでもないんですけど、ここで公共の通路が入りますので建物自身が開業しなくてもいいんですけど通路はできてないとアリーナに行けない状況になります。地上を歩いていけばいいですけどそうはいかないので、どうしてもやはりこの公共用通路を通っていくという形になりますので、2030年の春には少なくともこの公共用通路部分はできているというのが大前提ということになります。そこで宿泊需要はそのときから出るはずですので、そうするとその時点で開業していただくのが一番いいと思います。恐らくですけどアリーナの場合、コンサートの場合は相当のお客様が市外むしろ県外の方がかなり比率が高いので、宿泊が相当静岡市を逼迫するような状況になると思います。そういう点からいってもここに宿泊施設があるというのは非常に大事だと思っています。開業と同時に宿泊施設があるというのは非常に大事だと思っています。

◆司会

その他発表案件についていかがでしょうか。はい、中日さんお願いします。

◆中日新聞

すいません中日新聞の飯盛です。

もう一問アリーナで、4ページの今後のスケジュールのところにある予算審議とあるんですけど、市議会2月定例会に上程予定の予算額っていうのは3ページにあるあの支出の部分の公共取得費のところだと思うんですけど、このみでお幾らぐらいを計上する予定とか決まっていますか。

◆市長

はい。担当局から説明をいたします。

◆社会共有資産利活用統括監

社会共有資産利活用統括監の山田です、よろしくお願いします。まさに今ご質問あった内容で来年度要求をしていくんですけども、それも事業者さんの提案の金額次第ということになりますので正確な数字については今申し上げることができません。以上です。

◆市長

ただデッキを作りますから、公共通路ですね。公共通路の部分については、これは市が購入することになるのでその部分の金額ということになりますけど

も、普通に作ると、つまり単独で通路を作ると 9 億円以上かかる通路になりますこの部分だけで。それを合築することによって下がりますので、通路だけ歩道橋だけ作るとそれだけ費用かかりますけど、基礎とかなんとかってというのはこの建物だとみんな一緒ですから。そうすると一体整備にした場合、一体整備というのはこの通路と建物を一体整備をしたときは相当費用が下がります。市が負担すべき費用が下がりますので、そういう面でもこの事業の仕組みというのは非常に大事になってくると思います。

もう一度申しますと、まずはここを貸付又は売却をすることによって収入が得られる。そこで 1 回收入的には優位な点が出てきますし、それからこれを単独でペデストリアンデッキ、歩道橋を作ると金額がかなりそれだけで上がりますので、これを建物と一体型にすることによって費用が下がるということです。その両面で市にとっては有利なやり方ということになると考えています。

◆中日新聞

先に支出があってそれで長期的な収入で取り戻すっていうイメージでよろしいんでしょうか。

◆市長

まず売却のところが多分 6 億円か 7 億円ぐらいの売却益はあるんじゃないかなと思っていますので、その範囲内で収められるんじゃないかなと思いますので、ちょっとどのくらいとあんまり皮算用していてもいけないのですが、初期段階から市はそれほど支出をしなくてもこの事業は成り立つ。定期借地で 3000 万、30 年で 9 億ですからそれで返ってくるようなイメージですね。もうちょっと具体的に言うと、土地の売却の部分でかなりの初期投資の部分を賄って、あとは定期借地の 30 年で収入をずっと得ていくというのが実態だと思います。

◆司会

それでは静岡新聞さん。

◆静岡新聞

度々すいません静岡新聞の岡田です。今お話聞いている通り、市にとってのメリットはすごくあるかと思うんですけども、業者さんにとってみても立地条件とか含めて利益がなければ出てこないと思います。改めて市としてどういった業者さんに来てもらいたいのか、またどういった地域にするために一緒に共創していくために携わってもらいたいのかという市長のご意見をお願いします

す。

◆市長

はい、ありがとうございます。これから街づくりをしていくときには施設単体で考えるのではなくて、今はエリアマネジメントって言いますけど、地区全体で街づくりをしていくっていうのが大事になってきます。ちょっと全体の図、ここで言うと先ほど言いましたこちらですね、南側で図書館があったりそれからオフィス、それから産学官連携拠点みたいなのをおそらく県は検討されていると思いますので、そういったものはここに立つ、それでグランシップがあるということになるわけですね。そうするとここだけでかなりの人が集まる場所になりますので、そうすると当然ホテルは必要、商業施設は必要ということになります。

もう一つはそこの中で単に人が集まるだけではなくて、こういう情報だとかクリエイティブだとかデザイナーとか、そういう新しい産業の人たちが集まる場所になります。このアリーナもグランシップも同じですけど、ここは表現の場なんですよね。そういう場所があって、何か箱物という言い方がありますけど、そういう文化的なものだとか新しい学術であるとかそういうものを世の中に表現する場なので、その表現する場があるということになるとそれに関連した研究であるとか、ビジネス企業であるとか、研究者起業家だとか、あるいはスタートアップだとか、そういった方々が来ることになると思います。従ってちょっと上げていただいて、ですから宿泊が必ずいる。それからこのあたりについては商業施設が入ってくる。アリーナは、コンサートだとかあるいはスポーツのイベント試合があるとき以外にも、日常的にここに来ていただけるような場所にしたいと言っていると思いますので、ここに商業施設がこの辺りはしっかり入ってきてもらって、その上についてはそういうオフィスですよね。あるいは、こちらは大学のサテライトオフィスそんな形が望ましいと思っています。

ですからアリーナを核にしたここは街づくりをすると言っていますけども、要はここは街づくりの一つの象徴的なアリーナだけじゃない、こういうものが複合的に出る。場合によってはこういうところ空いていますので、そういうところにもこれからいろんなものが建ってくるので、そうするとこの東静岡駅周辺というのが新しい産業だとか、人が集まるいわゆる交流の新しい拠点になると考えています。

◆司会

よろしいでしょうか。それでは発表案件については以上とさせていただきます

す。続きまして幹事社質問に参りたいと思います。本日の幹事社NHKさんになります、よろしくお願いします。

◆NHK

NHKの小泉です、2点伺います。まとめて1点で伺います。熊本県の地震の関係なんですけども、熊本県で発生した大地震を受けて静岡市は7月30日から職員を派遣されていますが、現地での支援にどのように取り組んでいくお考えでしょうか。また職員派遣以外に物資の提供など、追加の支援について検討しているものはありますか。併せて今回の地震を踏まえて市として災害対策の見直しや強化を検討している点があれば教えてください。お願いします。

◆市長

まず熊本の大地震ですね。本当に犠牲になられた方々のご冥福、そして1日も早い復旧復興をお祈りいたしますが、その上で静岡市は7月30日から職員を派遣しています。熊本市から要請を受けて避難所の運営と罹災証明書の発行支援、それから保健師による健康観察、このために人を派遣してほしいということですのでこれまでに22人の職員を派遣しました。今日も交代要員として、1週間ぐらいで変わっていきますので、今日は交代要員として16名が被災地に向かっています。それから8月3日からですけども、断水が続く八代市からの要請に応じてトイレカー1台と職員5人を派遣しています。とにかく被災地が必要としている支援を必要なときに届けるということですので、いろんな全国の県であるとか市町村が今応援に駆けつけていますけれども、その中で静岡市として何をすべきかということを考えて的確に人あるいは物資あるいは車、そういったものを派遣していきたいと考えています。

それから今回の地震を踏まえて市として災害対策の見直しの強化というところですけども、やはり直接のともありますけども酷暑の中で車中泊等の関係で既に災害関連死が出ているわけですけども、そういうところがやはり大きな課題だと思っています。地震とは関係なくこの酷暑という状態だけでも今熱中症で多くの方が亡くなったりしている状況ですから、その中で災害と重なるということで非常に厳しい状況が起こり得るということを考えた上で対策をしていかなければいけないんですけども、やっぱり今までの静岡市の計画ですけどやっぱりまだまだ甘いところがあるなと思っています。

その辺りについて更に強化をしていかなければいけないと思っていますけども、とりわけ足りないのは避難所のいろんな施設ですね、水だとかそういうものは送ってこられますけどやはり段ボールベッドですね。そういったものとかあるいはパーティションという周りと隔離できるようなものですね、そういったも

のが決定的に今の熊本でも欠けているという状況はありますが、静岡市の備蓄状況を見るとそこは非常に手薄ですので、そのあたりですねもう1回見直さないとはいけないと考えています。

それからもう一つ、この暑さ対策として学校の体育館のエアコンを今年から整備を始めていますけれども、これもどういう方法がいいかなということをまた再検討しているところです。

具体的に言うとやはりその被害想定をしっかりとする必要があって。八代市は断水が続いていますけども、断水が続いているということあとちょっとガスの問題もありますけど、地下がかなり動いているのでそうするとガスの復旧というのが厳しい可能性がある。静岡においても液状化の想定も見直されたりしていますので、液状化が起きるとやはりガスには脆弱性があるなと思っています。一方で、電力は電力で停電がどういう状態で起きるかわかりませんので、このガスと電気が両方とも使えない状態を想定してどうするか。ガスは復旧しているけど電気は復旧していない、逆にガスは復旧してないけど電気は復旧してないと。そういう事態を想定して、そのときに体育館のエアコンをどういう形で整備しておいたらいいのか。それから学校のエアコンを、普通教室だったり特別教室であったりするエアコンとの連動をどうさせるかということですね。今学校の普通教室とそれから特別教室のエアコンはみんな電気式になっていますので、そうすると電気が来ないと非常に厳しい状況になるということですね。従ってガスにしたらいいのか、体育館は全部ガスにしたらいいのかということこれも危険性があるので、おそらく電気と電気式とガス式の組み合わせをうまくやったような形で体育館のエアコンの整備を進めていかないといけない。

それから拠点的なところについてはやはり蓄電あるいは発電ですね。非常用の発電施設をしっかりと置いてやらないといけない。それもエアコンが動かせるレベルの発電施設を作っていないと、非常に厳しい状況になる可能性があるもので、もう1回我々そういうその事態想定といいますか被害想定、こういうことが起きたときにはこの対応、こういうときにはこの対応ということをみんな考えた上で配置等を、例えばエアコンの整備、体育館のエアコンの整備それから学校への発電蓄電系の施設の整備、そのあたりをどうやっていったらいいのかっていうのを今考えているという状況です。いずれにしても熊本の状況を見るとやはり非常に厳しい状況がありますので、職員が行って頑張ってくれていますけども、一旦職員が帰ってくるとそこでまたこういう課題があったというような話が聞けると思いますから、それを踏まえてその知見を生かして静岡市としても新しい取り組みをしっかりとやっていきたいと考えています。以上です。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問についての関連質問についていかがでしょうか。それでは中日新聞さん。

◆中日新聞

中日新聞の飯盛です、よろしくお願いします。市営住宅の提供などは検討していますでしょうか、県営住宅だったり。浜松市も市営住宅を熊本の被災者に対して提供すると昨日発表しているんですけども、これ罹災証明書が必要になるようなんですけども、静岡市としては検討してますでしょうか。

◆市長

具体的にご要望があったらと。例えばですけど、積極的に我々が提供することは考えていませんけれども、例えばその方が静岡市にゆかりのある方のところに行きたいということであれば、元々静岡市とのゆかりであるとか静岡市に親戚の方々がいて静岡市に一時避難あるいは1.5次避難、二次避難をしたいというご要望があれば、それは市営住宅を提供するということはしていきたいと思っています。普通に考えると熊本ですので、やはり近隣で1.5次避難、二次避難というのがもっとも皆さんがそれを選択される可能性が高いと思いますので、それは熊本以外のところ熊本県以外のところは被災はほとんどしていませんから、やはり周辺で受け入れ合うのがやっぱり被災された方々の選択としてもそちらが優先されるんじゃないかなと思います。

◆司会

その他よろしいでしょうか。はい、静岡新聞さん。

◆静岡新聞

すいません静岡新聞の岡田です、よろしくお願いします。先ほど計画がまだまだ甘いということで見直さなきゃいけないというふうにおっしゃってました。今のそういった計画の改定とかそういった状況がすいません不勉強でわからないんですけども、そういった見直し、備蓄用品の見直しなんかは早々にできて計画とかの見直しはまた違うのかもしれないんですけども、ある程度今年度中とですとかいつぐらいまでにやっていきたいという目星を付けていきたいとか、そういった見直しというところについてはどのように考えているのか教えてください。

◆市長

やはり大規模災害のときは避難生活の長期化ということが大きな課題で、それによって災害関連死が増えていくということがありますので、場合によっては直接死よりも災害関連死の方が多いというような状況も最近では事例としてあり得ますので、そこについて避難生活ですよね。長期的な避難に対する対応をしっかりとやっていかないといけない。それから短期的には酷暑猛暑対策をやったりしっかりとやっていかないといけないと思っています。

今静岡市の備蓄ですね、避難物資等の備蓄、避難所運営関係でやっぱり欠けているのはプライバシーの確保ですね。あるいはその段ボールベッドだとかマットだとか、そういうところの備蓄数はもう決定的に欠けていますのでそのあたりについて見直しが必要で、見直しはすぐにやりますけども調達を順次やっていくということをやりたいと思っています。

それからやっぱりもう一つ大事なのが事前防災ですので、熊本の場合は地震でしたけれども静岡市の場合は津波ですね。やはり事前防災で災害の危険度を下げて被災される方の人数を少なくしておかないと、被災された方が多いので、それに対して支援が回ってこなくて災害関連死になるということが考えられますから、やはり事前防災で災害危険度そのものを下げておく。例えば、昨日も巴川の河口水門の既成同盟会が開かれましたけども、例えば巴川の河口水門を早く整備をすることによって圧倒的に避難人数を減少できますので、そういうところをやっぱりしっかりとやっていかないといけないと思っています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。あとすいません、エアコンの導入に関して多分教育施設へのエアコンっていうのは順次進めていくという計画を立てているかと思うんですけど、先ほどガスと電気等々というような併用とかいろんな想定を考えた上での考え方も皆を考えていかなきゃいけないとおっしゃっていましたが、そういった見直したいなのとかっていうのは今後進めていくんでしょうか。

◆市長

これはですね、実はこの地震が起きる前からそのところの議論をずっとやっていたんですよ。元々はガス式を中心にやるっていうことにしてたんですけども、やはりガスだけに頼るとガスが使えなくなったときに全ての体育館がエアコンが使えないという状況なので、それはまずいだろうということで、ガスと電気をどうやって組み合わせていくか。例えばで言うと、学校はいくつかありますので、そうすると何々中学校はガス式にしておいて、もう一つ近隣にあ

る中学校は電気式にしておくとどちらかは使えるという状況があるわけですね。そういう議論をしていたんですけども、ただそのときに欠けていたのは、この酷暑対策っていう点で言うと、普通教室、特別教室のエアコンも使えないと非常にまずいわけですね。今普通教室と特別施設で全部電気になっているので、電気になった場合はもう使えないという状況になるわけですね。そうすると非常に厳しい状況が起きるので、酷暑のときはそこに発電を入れていかないといけないんですけど、今までの発電はエアコンを回すことの発電は考えてなくてその日常生活の中で必要なものの発電を考えているわけですね。ですから例えばEVカーを持っていって、そこでうまく何台かで運用させれば上手く電力供給は最低限のものは提供できるようなことを考えたんですけど、やはり今の状況を見るといくつかの拠点的な施設については、電力がなくなっても供給がなくてもエアコンが回せるというのをいくつか作っておかないと非常に厳しい状況なんだということがあるので、その辺について改めて今議論をしているところです。従って、元々その議論をしていたので熊本の状況を踏まえてさらにそのもう1回見直しをかけているという状況ですね。

◆司会

はい、静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

1点だけ確認なんですけど、難波さんがその計画を見直すっていうその備蓄の面とあってあると思うんですけど、参考程度に何か正式名称とかありますか。何か公表されているとか備蓄計画とあってのは何かありますか。

◆危機管理課

はい、危機管理課です。備蓄の見直しにつきましては今年度、5年をかけて整備をし直すというものを作っています。ちょっと対外的にどこまで公表しているかっていうのはすいません、ちょっと確認しないとわからないんですけども、必要な数字を見直す、必要な品目を増やす、そういったことを昨年度から行っております。

◆市長

かなり買い増す予定ですね、特にテント、パーティションであるとか、それからオストメイト対応トイレとか簡易ベッド、マット、こういったものは買い増していく予定にしていたんですけど、ちょっとこれじゃ甘いなということで不十分だなということで、これから早急に見直していく予定にしています。

◆司会

それでは幹事社質問関連につきましては以上といたします。それではその他質疑の方に参加しますのである方は挙手の方お願いいたします。はい、読売新聞さん。

◆読売新聞

読売新聞の大坪です。静岡市の熱中症対策についての関連でクーリングシェルターについてなんですけれども、静岡市の方ではクーリングシェルターの指定施設をしずマップで公開していたりだとか、あるいは静岡中部連携中枢都市圏でクーリングシェルターを増やしていくという方針を掲げたりするかと思うんですけれども、静岡市民がどうクーリングシェルターをどう活用できるかという点と、市としては熱中症対策の方針、こういった思い意気込みですとか、そういったところクーリングシェルターの関連で伺えればと思います。

◆市長

クーリングシェルターについては多くの方にご協力をいただいています。少しずつ定着はしてきているとは思いますが、まだまだ知られていないということもあります。例えば、典型的ですと理容室ですね。そういうところは組合の方が協力してくださって、気楽に入ってくださいみたいなことでやっていますけれどもまだまだ気楽にこう使うというような状況にはなっていないんじゃないかなと思いますので、改めまして今回の状況を踏まえて目標もやっぱり定めてやった方がいいと思いますので、今までは協力してくださるところに協力をしていただいていたけども、どこがどのくらい今不足しているのかとか、もうちょっと増やした方がいいのかというような分析は欠けている状況にありますので、そこをもう一度分析してより働きかけていくということをしていきたいと思っています。今まで想定以上の状況がやっぱり今起きていますので、これから良くなることはなくて、さらに酷暑が続くことというのは今年という意味ではなくて年々厳しくなってくるので、そこはこれからより対応強化していかないといけないと思っていますので、早急にそこは進めていきたいと思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビの高山です、よろしくお願いします。静岡市歴史博物館のこと

について伺えればと思います。プレオープンから数えれば先月で4年が経過したというところだと思います。これまでの歴史博物館の運営であったりだとか、途中で実績と照らし合わせて過大な目標からということで修正をした来館者数の推移などもありました。改めて実績に対する評価を伺えればと思います。

◆市長

実績は最近かなり回復、回復というのは変ですね、利用者が増えてきているのではないかと、評判も非常に良くなってきているのではないかなと思います。博物館もいろんな工夫をしてくださって、行ってみたくなるような館にするということで取り組んでくださっていますので、それが定着してくれば目標レベルにはなっているんじゃないかなと思います。

やはり最初のうちはどちらかというと展示そのものも弱いところありましたけど、そういう展示はある種、ものなわけですよ、そうじゃなくてそれを活用して皆さんに関心を持っていただくか、訪れていただくかというやつぱソフトが大事ですので、そのソフトの面で相当取り組みが進んできていると思いますので、そういった点では順調に推移しているのではないかなと、最近はですよ。当初はちょっと厳しい状況があってそれは私はだいが苦言は言いましたけども、今は館の皆さんがすごくいろんな取り組みをしてくださって良くなってきていると思っています。

◆静岡朝日テレビ

すいませんそれに関して先ほど東静岡の話もエリアマネジメントというお話されていましたが、この駿府城エリアも紅葉山庭園の改修をはじめ駿府城エリアとしての観光資源として、この歴史博物館を含めて一体としてどういうふうにお考えでしょうか。

◆市長

そういう点で言うと、まさに先ほどもその議論をしていたんですけども、エリアマネジメントができていないということで、駿府城公園は歴史的経緯もあってあの城址というよりも公園としての利用が強かったわけですね。今の状態今のレイアウト配置を見るとやっぱりその公園としての機能がなくて、市民利用、イベントでの市民利用というのは非常に多いと思います。それはそれで大いに結構なんですけども、そのために市民利用がしやすいような配置になっているので歴史が感じにくいという状況があります。市民利用があるというのは大事なことですけども、そこだけではなくてやはり観光に訪れてくださる方が

非常に多いんですけども、なかなかそこでこの駿府城を実感していく、魅力を実感しにくいという状況があります。

例えばですけども、駿府城公園のエリアを二つに分けるというのは物理的に仕切るといふ面じゃないですけど、どちらかというと西側ですね、こちらから向かって左側ですけども、左側は市民利用が中心で今度は東から北側にかけて東御門に入って、そして紅葉山庭園に向かってそれから駿府城の石垣があって、その向こうに今度は展示施設ができますので、そうするとそっちはすごく歴史が感じられるような作り方というのをすると、イベント利用とうまく調和した形でその魅力が出せるなど。今やはり東御門のところから入っても昔の城の雰囲気を感じにくいですよね。だからやっぱりただ全体をそればかりにしていると、この公園としての魅力が下がってしまいますのでうまくエリアを分けて、それで魅力をより高めていくということがあり得るんじゃないかなと思っています。

◆静岡朝日テレビ

最後にもう一つすいません。歴史博物館なんですけども、決して毎年少ない額、3億円近く去年は費用がかかって市として出していると。指定管理者というところで、もしおっしゃりにくいところもあるかと思うんですけども、改めてこの事業の見直しとかそういったところの考えはあるのでしょうか。

◆市長

指定管理については今しっかりやったださっています。基本は今まで指定管理について静岡市の場合は、非公募が多くて以前からやっている方々にお願いをしている。それから市の関係の財団だとか社団だとか、そういうところが運営に当たっているというところが非常に多かったんですけども、最近はそのを見直してより多くの方々に関心を持って参入していただいて、その中でより魅力のある施設にすると、ある種のサービス競争のようなをしっかりとできるような形でやるために非公募をやめて公募に変えたものが非常に多い状況にあります。ただ博物館だけは、これはやはり今の運営形態がいいんじゃないかなと思います。やはり学芸員もいないといけませんし、それから文化的な施設ですからその文化についていろんなことについて知見を持っているような団体がやると。ですからエンターテインメント性を重視してもっともっと人を入れるということではなくて、やっぱり博物館としての機能はしっかりと守っていかないといけないので今の運営形態が望ましい。ただそれに安住していて人が入っても入らなくても同じような状況ではいけないので、やはりより人が入ってもらいと、その何か良いことがその運営団体もあるような、インセンティブを

つけるとかそういった仕組みを考えていく必要があると思っています。

◆司会

すみません皆様、本日の公務の都合ございまして質問あればあと、一問としたいんですけどよろしいでしょうか。

よろしいですか。はい、それではありがとうございました。以上をもって本日の記者会見終了となります。ありがとうございました。次回の市長の定例記者会見につきましては8月21日金曜日の11時からになりますので、よろしくお願いいたします。